

# 第4回 塩竈市防災会議

平成 25 年 10 月 18 日

## 会議内容

- |           |      |
|-----------|------|
| 塩竈市防災会議議長 | 佐藤市長 |
|-----------|------|
1. 開会 午後 1 時 30 分
  2. 挨拶 佐藤市長
  3. 会議録署名委員の指名
  4. 議事
    - (1) 塩竈市地域防災計画見直し素案について
      - ・地震災害対策編
      - ・津波災害対策編

## 《議事に関する質疑応答》

(塩竈市北部地区町内会連絡協議会)

- ・要支援者個人の情報開示ということで、今大変厳しい状況になっている。
- ・他地域で民生委員の方や消防団の方が、正義感が強いので、かなりの犠牲者を出した。
- ・塩竈市として民生委員や消防団の行動マニュアルをつくるべきではないか。

(健康福祉部)

- ・現状では民生委員に台帳整備をし、情報提供させていただいていた。
- ・町内会長には一筆書いていただき、町内会の情報を提供。
- ・住民基本台帳とマッチングし、今登録している災害時要援護者は 1,000 名いる。
- ・10 月から 11 月にかけて新しく確認された情報が上がってくる。
- ・この情報を各民生委員、各町内会に今後ご説明をさせていただく。
- ・災害時要援護者の情報を地域で共有していただく必要があるので、町内会にもデータの提供をさせていただきたいと思っている。
- ・民生委員の自分の身を守るということに関し、今後先進事例を踏まえ、検討していく。

(事務局)

- ・消防団は、現在マニュアルを作成し、検討。
- ・それと合わせ民生委員と避難行動要支援者の検討も一緒に考えたい。

(塩竈市北部地区町内会連絡協議会)

- ・人命にかかわるので、民生委員、消防団に対しマニュアル化するよう、早急にお願いし

ます。

(塩竈市東部地区町内会連絡協議会)

- ・東日本大震災以後の生活でこうしたらいいのではないかという点があった。
- ・今回の素案に大体網羅されておりますが、もう1つ突っ込んでお願いしたい。
- ・自宅避難された方は、大体高齢者1階にお住まいですから、2階に避難させるのが一番安全な方法と思う。
- ・若いご夫婦が外で仕事を持ったりし、家に戻るには間に合わない場合、民生委員の方の実態把握。
- ・いかに2階に避難させるか、あるいは指定場所に避難させるかという、そこまで考慮して記入しているか。
- ・給水のポイントについて、同じ町内でも近い人と遠い人の差があり、できれば自衛隊の東日本大震災時の支援のような気配りのある給水活動。
- ・原則的にはこのポイントであるが、余裕があれば移動するなど応用の利いた給水でないと、特に高齢者の世帯は大変であるという感じを受けた。
- ・そのような内容で防災計画に入れていただければということを非常に感じました。

(事務局)

- ・在宅者対応について防災計画の本編で触れている。
- ・情報の共有並びに支援計画的なものを今後検討するかたちに掲載している。

(水道部)

- ・給水ポイント18カ所が基本であるが、余裕ができ次第、要望、必要性があるところにてできるだけ早く給水できる努力を行う。
- ・加圧式給水車という最新兵器を購入し、給水活動を行う。

(塩竈市西部地区町内会連絡協議会)

- ・自主運営避難所が30カ所表示されている。
- ・市内に165カ所の町内会がある。
- ・東日本大震災時の情報の伝達は発災後、スムーズじゃなかったと感じている。
- ・発災後の情報は、各町内会のパソコン等の連絡、多重の通信情報を活用しながら情報提供すべきである。
- ・西部地区では無線による情報交換を考えていた。
- ・各町内会との情報の伝達がいかに重要かということであり、情報の多重化、伝達の方法について、さらに検討させていただきたい。

(事務局)

- ・パソコンの関係の連絡は、塩竈市のホームページが動けなくて情報発信できなかった。
- ・現在ホームページのサーバーを県外のほうに移設している。
- ・同規模な震災が起きた場合、ホームページは衛星電話等で発信できる。
- ・そのため塩竈市の情報をホームページから全国に発信できる。
- ・町内会との連絡方法について大きな課題となっている。
- ・防災計画において、具体的な方法を今後も検討させていただきたい。

(社団法人宮城県塩釜医師会)

- ・東日本大震災は医療機関が被害を受け、早急に対応できなかったという問題があった。
- ・広域的な総合医療の体制を持つ必要があると思っています。
- ・DMAT、JMATのような応援部隊を取り入れる。
- ・命令系統を明確にしておかないとなかなか難しい問題がある。
- ・いわゆる兵站（へいたん）基地ですか、ロジスティクスに食料、水等がある程度被害の少ない地域拠点を置き、そこから必要なところに配付等、そういったのが必要。
- ・避難所は学校の体育館を避難所になっているが、残念ながら暖房も冷房もない。
- ・トイレも十分設備されていない。
- ・そういう意味で、避難所としての機能が不足している。

(社団法人宮城県塩釜医師会)

- ・東日本大震災では、薬屋の方々が早急にそういう供給体制をつくっていただいた。
- ・メーカーでなく、問屋が各医療機関に配付することができたと思っております。
- ・二市三町と18年3月に医療救護の協定書を作ったが、見直しをしたいと思っている。

(社団法人塩釜歯科医師会)

- ・口腔ケアに関し、個人の状況に応じた指導していかなければならないと常々思っている。
- ・各避難所にどんな方が、どんな状況にいるのかは我々の方に情報が入ってこない。
- ・そのような情報を必ずこちらに提供していただきたい。
- ・歯科医師会は、現在歯科医師2名、衛生士2名、技工士1名のグループをつくっている。
- ・要望があった場合、早急に活動できるよう、体制を整えつつある。
- ・県内に歯科医師会が11支部あり、1つずつ配置し災害対応できる体制を整えつつある。
- ・現在歯科医師会で言われているのが、将来20年、30年、50年後このようにみなさんと災害について話す機会を持ちたいと話している。
- ・歯科医師会で現在進めていることが50年後、震災があった場合、東日本大震災が糧となり、将来見本になれるような準備を現在歯科医師会でやっている。

(塩竈市塩竈消防団)

- ・先ほどあった、消防団の行動マニュアルについては、東日本大震災後、国と消防団で検討し、結論は出ており、津波到達時間 15 分前に安全な場所に避難になっている。
- ・塩竈市では津波到達時間 30 分前ということで、消防団の団員には話している。

(エフエムベイエリア株式会社)

- ・9月の下旬に送信所(アンテナ)を塩釜ガス体育館の高台に30m位の鉄塔を建てました。
- ・高い所から電波を飛ばすことで浦戸地区まで放送エリアを拡大することができた。
- ・今回の事業で浦戸の方はほぼカバーできたと思っている。
- ・防災計画にFMラジオ割り込み装置が入っており、ラジオでも防災無線と同じものが流れますが、先日の台風26号の際に、初めて割り込みがあった。
- ・ラジオを聞いていると防災無線の放送内容がわかるので、「防災無線が聞き取りにくい時は便利でした」というリスナーから意見をいただいた。
- ・海岸通りにスタジオがあり、津波が来た地域であるので、今後津波に対しどのようなかたちで市民の皆様へ情報伝達するかということをより一層考えていかなければいけない。

(宮城ケーブルテレビ株式会社)

- ・1点お伺いしたい。
- ・防災知識の普及でハザードマップの作成、周知徹底となっているが、周知の徹底の具体的な内容をお伺いしたい。
- ・現在防災PRで番組制作の部分において、周知は協力できるのではというところで制作の方で防災対策のPR提供ビデオというものを企画している。

(事務局)

- ・ハザードマップの作成、周知徹底については、防災計画書を作成後、市民向けのマニュアル書をつくることになっている。
- ・その中でハザードマップを作成し全戸配付したい。
- ・また防災研修会等の町内会から要請があった場合、併せて周知していきたい
- ・宮城ケーブルテレビと情報提供しながら、周知徹底を一緒に行ってまいりたい。

(塩竈市婦人会)

- ・東日本大震災を体験し、たくさんの教訓を得た。
- ・今回策定基本方針の中に、各種団体の市民や女性の参画を第一に掲げたことに大変うれしく思っている。
- ・11年前、市長から婦人会のリーダー立ち上がり時に、「防災頭巾を宮城県沖地震30年後必ず起きるので、防災頭巾の見本を作ってほしい」と話があった。

- ・ 2、3年の間に各町内会を回り、町内会長の協力を得て、頭巾の作り方、着用の仕方を子供、大人、お年寄りで作成や着用をやってみた。
- ・ 東日本大震災では3日間市役所で炊き出しをしていました。
- ・ 下半身ずぶぬれになった高齢者が何人も座ったまま1階の市役所の中に待機していた。
- ・ みなさん床に寝ている現状を見て、もう少し危機感を感じ、もっと準備しておけば、つらい思いを高齢者の方にさせられなかったという積年の思いでいっぱいだった。
- ・ 地域の婦人団体として、できることが山ほどあるんだということに認識した。
- ・ 10日ぐらいたって会員の安否確認をしながら、2、3人で全部の避難所を回った。
- ・ 私はボランティアの団体に登録し、高齢者のお宅の泥払いをやり、何日か過ごした。
- ・ 危機感を持ち、地域の婦人団体として、もう少し具体的な緊急の時の招集の仕方や連絡が取りあえれば、もっと早く高齢者、寝たきりの人、保育所や幼稚園の子供たちのために積極的に10日目あたりから動けたという積年の思いでおる。
- ・ 東日本大震災の悲惨な体験を通して、団体としての緊急事態の時にどう連絡を取り合い、何のために、誰のために動くかということは今話し合って、まとめようとしている。
- ・ 女性が防災会議の中に35名プラス4名入った。これは大きな進歩だと思う。
- ・ できれば10名ぐらい女性の方々が入り、2年7カ月体験したことを具体的に話し合い、きめ細かな素案ができればもっとよかったのではないかなと感じている。
- ・ 各種女性団体の役割。行政の方々に進んで声を掛けていただきたい。
- ・ 男性は男性の仕事、女性は女性ならではの仕事が今回はっきり見えたので、町内会長、行政、医療関係、議員と一致団結して動くのが一番効果的と感じている。

#### (宮城海上保安部)

- ・ 災対策に基づき、地方の指定行政機関であるため、役割は中央の方から決められている。
- ・ 東日本大震災では、港の障害物を除去し、物資が届けられるよう航路啓開を行った。
- ・ 最大限できることを物理的にやらせていただき、10日ぐらいでタンカーが入港。
- ・ これには各企業等のご尽力もあつたと感じている。
- ・ このような災害に対し検証を行っておりますので、市民生活に支障がないよう努力していく。

#### (宮城県仙台塩釜港湾事務所)

- ・ 幸い塩竈の港は昔から天然の良港ということもあり、大きな被害は受けなかった。
- ・ 県としては将来のあるべき港の姿を港湾計画の中に耐震岸壁というものを位置づけ、整備について国土交通省と今後どうしていくかということを考えていくことになる。
- ・ 浦戸地区は陸からは運べないところがあり、緊急輸送の方法等、防災計画上どのように触れられているのか？

(事務局)

- ・東日本大震災の際も浦戸地区との輸送関係ではヘリコプターを活用させていただいた。
- ・臨時ヘリポートなどを設定しながら、今回対応していけたらと考えている。
- ・緊急輸送ということで、航路が流出物で使えない部分があったので、自衛隊の方の協力を得ながら、対応するかたちになっている。

(陸上自衛隊第 22 普通科連隊)

- ・ヘリの輸送に関し、学校グラウンドとか、全国の自衛隊でも各自治体に着陸できる場所を求め、調査の協力を依頼をしている。
- ・仙台市等の防災訓練時、病院屋上のヘリポートがあるところ降着訓練をしたい。
- ・震災で道路が使えなくなると、空中輸送に頼るところがあるので、全国的には調査を進めているのでご協力いただければ積極的に関与していきたいと思っている。

(国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所)

- ・国土交通省の仙台河川としては、塩竈市の国道 45 号の啓開を担当。
- ・東日本大震災において、NHKの報道であったとおり、国土交通省の作業として三陸沿岸で 72 時間でおおむね 95%啓開を行った。
- ・しかし、自主運営避難所等の細部の情報が共有できなかった。
- ・大通りは啓開済みだが、残りは行き届いていない。
- ・大変ご迷惑、ご不便をおかけしたという報道もあった。
- ・今後防災時は避難所の情報等生活情報に関し、国交省のリエゾンを通し、情報共有を図りきめ細かな対応を取っていきたい。

(宮城県塩釜警察署)

- ・警察の任務は大災害が発生時、真っ先にやることは市民、県民の避難誘導。
- ・前回の分科会で討論、特に伝達に関し盛り込んでいただきました。
- ・伊豆大島の件は、あれほどの被害において市民に情報伝達がうまくいかなかった。
- ・これらを踏まえ伝達検討。
- ・無線が聞こえない所があるということで、進める上で検証していただければと思う。
- ・よい政策を行っても検証がなければ活用できないので、その都度検証を入れてほしい。
- ・避難誘導の関係は、警察、自治体、消防団は、住民の避難に関し避難誘導を行う。
- ・その際住民の方が自ら避難できる体制づくりが必要。
- ・普段から頭の中に入るよう、教育的な面も積極的に取り入れていただきたい。

(宮城県仙台土木事務所)

- ・啓開の部分と避難路というかたちの 2 点の視点で、現在道路整備をしている。

- ・塩竈市では幹線道路の八幡築港線が現在かさ上げ。
- ・大分低い所があるので、かさ上げをしながら物流の確保という視点、交通量が多いため4車化で現在進めており、協力をいただき早く進めたい。
- ・道路について耐震対策ということで、引き続き整備をしながら地震に備えていきたい。

(宮城県仙台地方振興事務所)

- ・東日本大震災は千年に一度あるかないかの考えで地域防災計画を策定し、また十年、百年、のレベル1ということで、それも睨みながらということである。
- ・地域防災計画の内容を3回議論したが、それぞれの団体、行政から出された意見は反映されていると思っている。
- ・各自治体さんの地域防災計画の最後に必ず話しているのは、計画をつくったあと、市民にはかなりのボリュームなので、わかりやすい内容で周知をしていただきたい。
- ・今回この概要版は実際の素案の中のどこに書いてあるのか、どこがどう前と変わっているのかしアンダーラインを引くなり、何か工夫が必要ではないかと思っている。

(宮城県仙台保健福祉事務所)

- ・社会的弱者の支援のベースになるのは、策定基本方針、13の1つにある、公助とか共助、自助があり、1番は自助ということだと思うがなかなかできないのが現実。
- ・当事務所は北浜にあり、東日本大震災時は事務所自体が被災に遭い、行政機関自体も機能を果たせなかった。
- ・そういう意味で共助が非常に大事なのが個人的に思った。
- ・分科会のとき話があったが、塩竈市のような都市部の場合、近所の連絡、横の連絡が思うようにならないという話があった。
- ・お年寄り、障害者支援の前提に、市民の横のつながりをどうやって仕組み作りをしていくかが大事と思っている。
- ・日頃防災訓練等々やられていると思うが、それに加え横のつながりをつくる仕組み作りが大事だと思う。

(社会福祉法人あしたば福祉会)

- ・これまで話を聞き、要援護者に対するご理解を、沢山いただける気がしております。
- ・避難時の車の利活用に対しわかりやすいように指導していただき、対象者に許可書、マニュアルを用意し、通常時よりイメージし、いざという時使えるようお願いしたい。
- ・避難時の障害者は皆さんには分かりづらいところがあることを少しでも和らげるために、お助けカード、援護者カードというもの現在作成中。
- ・皆さんと一緒に訓練、災害のための訓練等も参加できたらと思っている。

(社会福祉法人塩釜市社会福祉協議会さかえ保育園)

- ・前回の防災会議時、市内保育所の保護者との緊急連絡メールの構築を提案したが、早速対応いただき、公立でもメールを配信したということを知り、うれしく思う。
- ・台風 26 号時、公立、私立、それぞれのメール配信だったが、それぞれメール配信するが、一定水準の取り決めがあると一斉メール配信でき、保護者の方々も混乱しないのでは。
- ・市内小中学校もあるので、そちらにも提案し、保育所とも連動してほしい。
- ・例えば休校を教育委員会で決めた際、塩竈市の保育係にも連絡し、小中学校が休校なので保育所の家庭に対し、家庭保育の協力をお願いのメール配信を行ってほしい。
- ・どうしても保護者の代わりに預かる立場なので、休園という立場は取りません。
- ・基準を明確にし、台風とか地震、津波に対応していきたいと思っている。

(塩竈市校長会)

- ・今年の 6 月の本市の防災訓練。県内の各市町村で行っている地区は少ないが、今年度初めて市内の小中学校も一緒に参加させて訓練を行った。
- ・実際に本番。仮に万が一発生した場合の状況を考えて行った。
- ・普通教室の使用について要望もあったが、避難期間については市内の小中学校すべてでできる限りの対応をしていきたいと考えている。
- ・トイレ等々の課題について、すぐの解決策はなかなかなく、水道部ともいろいろ相談しながら最善策を図っていきたい。

(塩釜市老人クラブ連合会)

- ・常に地域、クラブ単位ごとに友愛訪問などを行っており、声掛けをするようにしている。
- ・できるだけ元気で一緒に交流をしてほしいということで、活動を行っている。
- ・個人的にも横のつながり、声掛け運動。そういうこともなるべく実行。
- ・災害の時、声掛けが大変必要。町内会ごと、隣近所の方々、今後も引き続き活動を一生懸命に実行していきたい。

(東北電力株式会社 塩釜営業所)

- ・ライフラインの事業者とし、電力は早期の復旧・復興のために重要な役割を担っているということを再認識している。
- ・そういった観点で防災計画の作成にはご協力をさせていただきたい。
- ・具体的には避難対策、避難収容対策について触れられ、いろいろ未整備な所がより具体化されている。
- ・今回避難所が拡大され一市民としても非常にありがたいことであるが、実際避難所での生活においては受け入れ体制の確立というのも非常に重要。
- ・自治体だけでは難しく、連絡体制、受け入れ体制が具体化してほしい。



(東日本電信電話株式会社 宮城支店)

- ・東日本大震災を振り返ると、地震の揺れによる通信障害になったケースはあまり多くなく、どちらかという想定外の関係で電話局が被災した。
- ・局が津波にのまれたり、中継用の光ケーブルが流出し、広範囲に通信障害が発生した。
- ・停電において非常用の電源はあるが、燃料の入手困難となり、徐々に電話局の機能を失ったというのが東日本大震災時の災害である。
- ・災害最大時は発災から2日後、3月13日の13時、東北地方で約4割の電話局の停止。
- ・塩竈局に関しても非常用エンジン、またバッテリーというものも搭載している。
- ・だが、燃料、バッテリーの枯渇により3月12日、夕方に塩竈ビルの停止になった。
- ・ネットワークの構成で、東北、北海道全面の孤立という危険性も当時あった。
- ・仙台に重要な拠点ビルがあり、多方面から油の協力をいただき、何とか東北、北海道の孤立を何とか防いできた。
- ・油が広域な孤立を避けるため、最低限1日約7万ℓ燃料を必要とする。
- ・油の関係では、近隣の各所からも少しずつは分けていただいたが、最終的には神戸から大きな支援をいただき、何とかつなぎ続けたという実態であった。
- ・塩竈の本局は機能していたが、大災害時は一斉に電話を使うので、電話局自体は機能した状態であっても、なかなかつながり難い状態が発生したと思っている。
- ・ご家庭、事業所で電気を必要とする電話機自体が使えないという状況で、電話局自体が動いていたとしても、皆さま方の電話機が使えない状況もあったのではないかと。
- ・NTTで震災の影響、反省も含め、東日本全体での燃料の備蓄等に取り組んでいる。
- ・また沿岸部に関しては、浸水区域の外に全部電話局を移設している。
- ・中継伝送とか、通信が切れないように、県、国の力を借り、より安定的な道路に中継伝送を再構築している。
- ・また津波が来ても大きな通信障害にならない、そういったネットワークになっている。
- ・NTTも災害が起きるとまず避難所の通信確保ということで、災害時優先電話に指定される特設公衆電話の開設を行う。
- ・現在塩竈市と協議し、あらかじめ特設公衆電話を避難所に設置することで動いている。
- ・今後避難所に避難された時、学校の協力をいただき、電話機を避難された方々に通信手段としてご活用いただければと思っている。

(塩釜ガス株式会社)

- ・宮城県沖地震に備えて耐震性の高いガス管に計画的に入れ替えを行ってきた。
- ・35年前の宮城県沖地震に比べガス管の方の被害は著しく少ない数であったが、都市ガスの卸元の仙台市ガス局の港工場被災により、供給停止という事態に陥った。
- ・3月24日に新潟からのラインの再開が決まり、ブロックごとに本管並びに個別に1本1本のガスを確認しながらの開栓になった。

- ・本管は大阪ガス、1軒1軒対応は北海道の事業者にお手伝いをいただいた。
- ・本格普及までに1カ月を要する事態となり、大変皆さまにご迷惑をおかけした。
- ・八幡築港線は津波等のリスクが高いため、震災前から3年計画で多賀城市の浮島に新しいルートとして導管の敷設を計画し、本年春に導管の方が完成した。
- ・仙台市ガス局の計量所も夏に完成し、先月からそちらのルートの運用も開始している。
- ・仙台市でも、来年の完成を目指し名取に新しく受け入れ施設を計画・工事を予定。
- ・塩釜ガスも二重化と卸元の仙台市の二重化という施策を併せて行っている。

(社会福祉法人塩釜市社会福祉協議会)

- ・東日本大震災時は多くの方、述べ8,000人のボランティアに協力いただいた。
- ・その中で反省等する部分は、地元の方にボランティア活動に協力して頂ければよかった。
- ・幸い若い方の力が非常に目立ち、今後災害が起きた場合、早期にボランティアセンターを立ち上げ、多くの被災地の支援に当たりたいと思う。

(議長)

- ・地域防災計画の地震災害対策編、津波災害対策編について、提案した内容を基本とし、ファックスで意見をいただくことになり、事務局対応でお任せいただきたい。
- ・本日は大変貴重な意見・発言いただき、皆さま方の思いがしっかりと地域防災計画に反映されるよう取り組んでまいります。